

消化器疾患の患者さまの笑顔。
そんな、
いい絵を描きたい。

消化器疾患で苦しむ人たちの
幸せに生きたい。
自分らしくありたい。
その思いにしっかり応える
私たちでありたい。
EAファーマは、
そんな未来の実現に向けて
進んでいきます。



EAファーマは、
エーザイグループの消化器事業と
味の素グループの消化器事業を統合・設立した
製薬会社です。

消化器スペシャリティ・ファーマ EAファーマ はじまる。



「第17回臨床消化器病研究会」開催のお知らせ
消化管の部 症例募集のお知らせ

消化管の部

[3セッション]

■8:50~10:40

主題 1 食道:「逆流性食道炎と鑑別を要する疾患」

司会者: 小山 恒男先生(佐久医療センター 内視鏡内科)
高木 靖寛先生(芦屋中央病院 内科)
病理コメンター: 二村 聡先生(福岡大学医学部 病理学講座)
基調講演: 門馬 久美子先生(がん・感染症センター都立駒込病院 内視鏡科)

■10:50~12:40

主題 2 胃:「H. pylori 陰性の限局性胃病変」

司会者: 上堂 文也先生(大阪府立成人病センター 消化管内科)
後藤田 卓志先生(日本大学医学部 内科学系 消化器肝臓内科学分野)
病理コメンター: 八尾 隆史先生(順天堂大学大学院医学研究科 人体病理病態学)
基調講演: 寺尾 秀一先生(地方独立行政法人 加古川市民病院機構 消化器内科)

■13:55~15:45

主題 3 大腸:「大腸腫瘍の診断—現状と将来展望—」

司会者: 鶴田 修先生(久留米大学医学部 消化器病センター)
山野 泰穂先生(秋田赤十字病院 消化器病センター)
病理コメンター: 味岡 洋一先生(新潟大学大学院 歯学総合研究科 分子・診断病理学)
基調講演: 田中 信治先生(広島大学 内視鏡診療科)

肝胆膵の部

[3セッション]

■8:50~10:40

主題 1 肝:「炎症を伴う肝腫瘍性病変(非腫瘍性・腫瘍性を含む)」

司会者: 吉満 研吾先生(福岡大学医学部 放射線医学教室)
佐野 圭二先生(帝京大学医学部 外科学講座)
病理コメンター: 中島 収先生(久留米大学病院 臨床検査部)
画像コメンター: 工藤 正俊先生(近畿大学医学部 消化器内科)
基調講演: 蒲田 敏文先生(金沢大学 放射線科)

■10:50~12:40

主題 2 胆:「胆嚢癌との鑑別を要する胆嚢病変」

司会者: 榎野 正人先生(名古屋大学大学院医学系研究科 腫瘍外科学)
花田 敬士先生(尾道総合病院 消化器内科)
病理コメンター: 柳澤 昭夫先生(京都府立医科大学 人体病理学)
画像コメンター: 廣橋 伸治先生(大阪明徳病院 放射線科)
基調講演: 糸井 隆夫先生(東京医科大学病院 消化器内科)

■13:55~15:45

主題 3 膵:「膵管内発育進展を呈する腫瘍性病変」

司会者: 清水 泰博先生(愛知県がんセンター中央病院 消化器外科)
入澤 篤志先生(福島県立医科大学 会津医療センター 消化器内科学講座)
病理コメンター: 福嶋 敬宜先生(自治医科大学附属病院 病理診断科)
画像コメンター: 角谷 眞澄先生(信州大学医学部 画像医学教室)
基調講演: 真口 宏介先生(手稲溪仁会病院 消化器病センター)

2016年7月23日(土) 8:45~15:55(予定)
東京ビッグサイト 1階 レセプションホール

〒135-0063 東京都江東区有明3-11-1 TEL 03-5530-1111(代表)

参加資格 オープン 会場費 3,000円

共催: 臨床消化器病研究会
〈事務局〉「消化管の部」岩手医科大学医学部 消化器内科消化管分野
「肝胆膵の部」手稲溪仁会病院 消化器病センター
EAファーマ株式会社 担当: 芦田 大輔 / 古屋 浩
臨床消化器病研究会HP <http://netconf.eisai.co.jp/rinsho-shokaki/>

第17回臨床消化器病研究会 「消化管の部・演題募集」について

消化管の部では、各主題で検討する症例を公募いたします。

消化管の部 主題症例募集

「主題のねらい」に即した症例があれば、「症例申込表」・「画像・病理データ」をCDに保存の上、事務局宛にお送りください。

※「症例申込表」は、臨床消化器病研究会ホームページ(<http://netconf.eisai.co.jp/rinsho-shokaki/>)より入手できます。

締め切り：2016年5月20日(金)

送付先：臨床消化器病研究会(消化管)事務局
岩手医科大学医学部 消化器内科消化管分野 医局宛
〒020-8505 岩手県盛岡市内丸19-1
TEL:019-651-5111(内3239) FAX:019-652-6664
e-mail:imgast@iwate-med.ac.jp

※本研究では、各セッションの様態をDVDに収録し、研究会終了後に希望者に貸出します。応募にあたっては、予めご承知おきください。

注意事項

1)「抄録」

※「臨床消化器病研究会 症例申込表」を使用し、以下の項目を必ずご記入願います。

- 応募する「領域」「主題」
- 演題名、所属、氏名
- 症例の要旨(400文字以内)
- 症例申込表とともに送付いただく資料の種類、枚数(資料別)

2)「画像・病理データ」

※**パワーポイント**で作成し、以下の**画像・病理データ**をご提出願います。

- 画像所見(X線所見、内視鏡所見など)
- 切除標本所見(マクロ)
- 病理組織所見(ミクロ)
- その他、症例検討に必要な資料

※**病理標本現物(プレパラート)**は、送付しないでください。

3)「症例申込表」、「画像・病理データ」は、CDに保存の上、ご提出願います。

主題 1 食道：「逆流性食道炎と鑑別を要する疾患」

司会者：小山 恒男先生(佐久医療センター 内視鏡内科)

高木 靖寛先生(芦屋中央病院 内科)

病理コメンテーター：二村 聡先生(福岡大学医学部 病理学講座)

基調講演：門馬 久美子先生(がん・感染症センター都立駒込病院 内視鏡科)

近年、*H. pylori* 除菌療法の普及、*H. pylori* 感染率の低下、肥満率の上昇等に伴い逆流性食道炎の頻度が増加しつつある。

逆流性食道炎の代表的所見は食道胃接合部の発赤、陥凹だが、同部には逆流性食道炎の他に、ビラン、潰瘍、萎縮、化生、腺癌、扁平上皮癌、炎症性ポリープ、乳頭腫、悪性リンパ腫等、鑑別すべき疾患が多々存在する。

そこで、今回の臨床消化器病研究会では、逆流性食道炎と鑑別を要する、良悪を含めた多種多様な疾患を検討したい。日常診療で、診断に苦慮した接合部病変をご応募頂きたい。

主題 2 胃：「*H. pylori* 陰性胃粘膜の限局性病変」

司会者：上堂 文也先生(大阪府立成人病センター 消化管内科)

後藤田 卓志先生(日本大学医学部 内科学系 消化器肝臓内科学分野)

病理コメンテーター：八尾 隆史先生(順天堂大学大学院医学研究科 人体病理病態学)

基調講演：寺尾 秀一先生(地方独立行政法人 加古川市民病院機構 消化器内科)

H. pylori 未感染・既感染胃粘膜の内視鏡診断および異常所見の広い上げと鑑別

H. pylori 感染率の低下と除菌治療の保険収載により *H. pylori* 陰性例に遭遇する機会が増えている。*H. pylori* 陰性胃粘膜は、未感染と既感染の状態に分けられる。このような粘膜環境で遭遇する限局性病変の中には、*H. pylori* 陽性胃における診断アルゴリズムでは質的診断に苦慮する場合がある。例えば、除菌後の陥凹性病変をどう診断するのか? 胃体部の非萎縮粘膜の隆起性病変の鑑別は? 未分化型癌の可能性のある非萎縮粘膜の褪色斑の良悪性の診断は生検でしかできないのか? など実臨床で判断に迷う場合が増えてきていると思われる。全てを生検診断に委ねるのではなく、内視鏡で質的診断に迫ることは患者のみならず医療資源の適正使用にも資するものである。

そこで、今回の臨床消化器病研究会では *H. pylori* 陰性胃粘膜における限局性病変を診断する際の内視鏡観察のコツと病理学的ポイントを明らかにしたい。

主題 3 大腸：「大腸腫瘍の診断－現状と将来展望－」

司会者：鶴田 修先生(久留米大学医学部 消化器病センター)

山野 泰穂先生(秋田赤十字病院 消化器病センター)

病理コメンテーター：味岡 洋一先生(新潟大学大学院 医歯学総合研究科 分子・診断病理学)

基調講演：田中 信治先生(広島大学 内視鏡診療科)

わが国におけるがん死亡数は年間約36.5万人であるが、そのうち大腸がんは約4.8万人で肺がん、胃がんに次ぐ多さである。さらに罹患数は年間12.5万人(第2位)にも上っている。

いずれも経年的に漸増傾向にあり、臨床現場では大腸腫瘍に対する画像診断は、経過観察も含めたその後の治療方針を判断するうえで重要であるが、一方で不適切な診断により被検者に不利益を招くリスクもある。

画像診断としては内視鏡診断が中心であるが、IEEの発達した拡大内視鏡診断では各種分類もあり目まぐるしい発展を遂げている一方で、これまで培われた注腸X線バリウムの知見が失われつつあるのも事実であり、初学者のみならず実地医家にとってもやや混乱した状況にある。

本セッションでは大腸腫瘍診断(腫瘍/非腫瘍の鑑別、腺腫/癌の鑑別、癌の深達度診断)の現状について基調講演と症例検討を通じて、基本事項から診断の肝について学びたいと考える。